

公開講座「長崎唐人屋敷 の変遷」開催

附属図書館では、10月23日～11月13日までの毎週土曜日の4日間、計8回にわたり公開講座「長崎唐人屋敷の変遷」を環境科学部講義室を主会場として、岡林館長をはじめとする7名の講師により開催し、38名の受講者がありました。

唐人屋敷は現在の長崎市館内町にあり、鎖国時代に長崎出島と共に海外に開かれていた窓口で、中国からの知識は長崎の「唐人屋敷」を通して全国に拡がり、多くの実用的な物資が中国と貿易されました。唐人屋敷から伝わった文化は現在も私たちの生活に密着しています。

このような観点から1689年（元禄2年）に完成した「唐人屋敷」に関して、社会・風俗・文化及び唐人屋敷の建設から解体について、多面的に唐人屋敷をとらえる初めての試みでした。

講師及び講義内容は、長崎市立博物館原田博二館長「石崎融思筆 唐館図絵巻にみる唐人屋敷」、県

立長崎シーボルト大学岩崎義則助教授「近世中後期の銅貿易と唐人屋敷」、本学若木太一教授「唐通事の言語生活—唐通事会所日録から—」、長崎市教育委員会宮下雅史学芸員「発掘調査から見た唐人屋敷」、長崎県立長崎図書館本馬貞夫副館長「天保期の唐人屋敷—天保六年唐館騒動の背景—」、ホテルJAL シティ長崎陳東華社長「長崎唐人屋敷の変遷」、岡林隆敏附属図書館長「唐人屋敷の範囲確定調査とその今後の活用」、「現地見学会」でした。

受講者は、20代から80代までの幅広い年齢層の方が参加され、講師の話に熱心に聞き入り、質疑応答も行われ関心の高さがうかがえました。

この公開講座に、長崎市職員として4名が参加され、特に現地見学会ではご協力いただき、人的コミュニケーションを図ることができました。さらに地域との連携にも大いに貢献することができました。

また、本学と学术交流協定を締結しているライデン大学文学部日本語・日本文化学科の交換留学生2名が一部講義に聴講生として参加し、交流がありました。



熱心に聞き入る受講者



現地見学会（唐人屋敷観音堂）

（図書館部）